

わだち



9月です。「自分を大事にした休養」がとれましたか。今回は「教員のやりがい」に関する調査です。

- 1 「教員としてどのような時にやりがいを感じるのか」 調査結果 ジブラルタ生命「教員の意識に関する調査 2023」
- 2 特に気になる箇所（昨年度より減少している項目）について（私見）

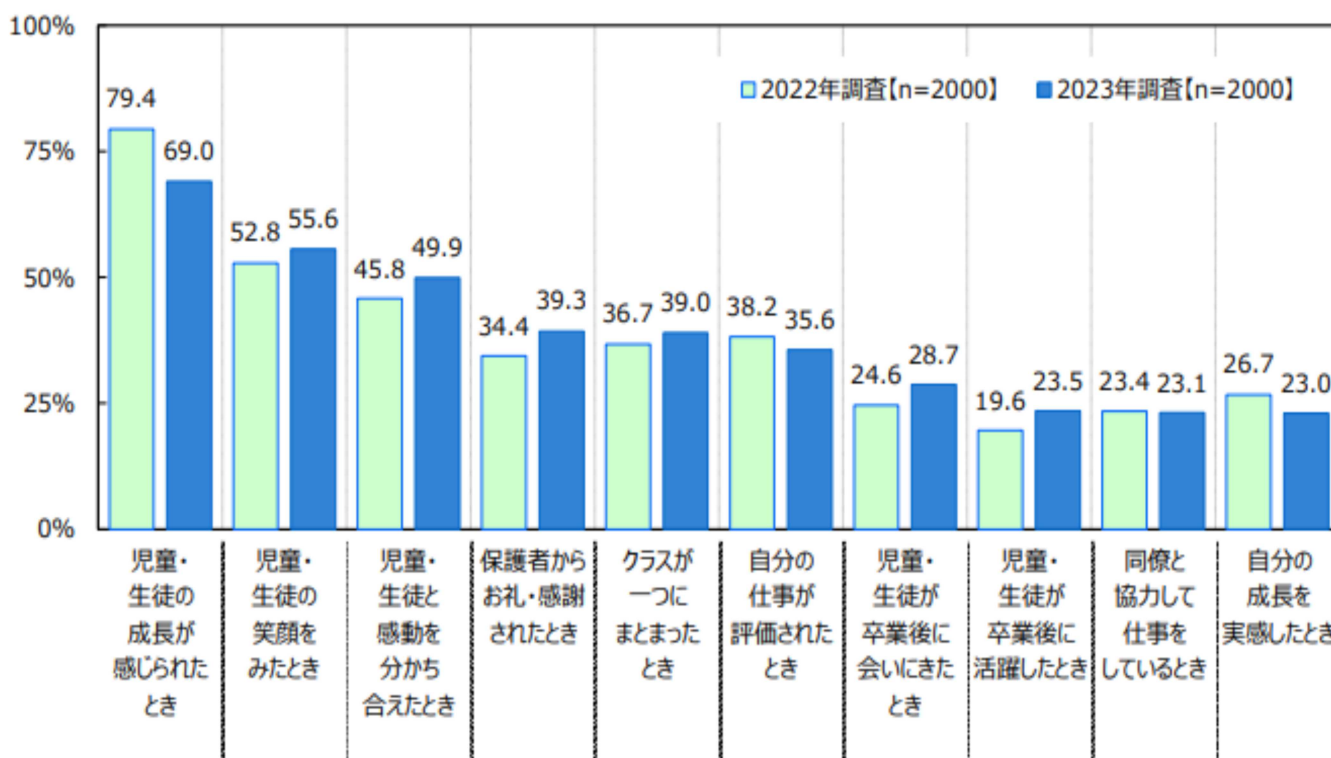
教員は未来より現在の目に見える結果を求めている。

- 1 「教員としてどのような時にやりがいを感じるのか」 調査結果

令和7月12日、20歳～69歳の教員2,000名を対象とする「教員の意識に関する調査 2023」の結果によると、教員としてやりがいを感じるのは、「児童・生徒の成長が感じられたとき」「児童・生徒の笑顔を見たとき」がトップ2です。しかし昨年と比べると

- 「児童・生徒の成長が感じられたとき」は79.4%から69.0%と10%以上減少している。
- 割合が減少しているのは「児童・生徒の成長を感じたとき」「自分の仕事が評価されたとき」「自分の成長を感じたとき」「同僚と協力して仕事をしているとき」が減少している。
- 割合が増加しているのが多いベスト3は「保護者からのお礼、感謝 4.9%」「児童生徒と感動が分かち合えたとき 4.1%」「児童生徒が卒業後に会いに来たとき 4.1%」80人以上増加している。

教員としてどのようなときにやりがいを感じるのか（複数回答式）上位10位



- 2 特に気になる箇所（減少している項目）について（私見）

この結果から、教員は児童生徒の成長や自分の成長そして自分の仕事の評価というすぐにはわかりにくい不確実なやりがいより、保護者からの感謝、お礼や感動の分かち合いや卒業後に会いに来たときなど目に見えて成果がわかることにやりがいを感じていることがわかつて思います。前回の調査結果の公立小学校の退職者を除いた離職率約47%に加えて公立中学校では約43%、そして公立幼稚園では、約80%が退職者以外の教員でした。（平成4年度学校教員統計調査中間報告）。つまり教育する対象年齢が下がれば下がるほど退職者以外の離職率は高い傾向にあります。私はこのことは人を育てる教員という仕事が夢や理想では働けなくなってきたのではないかと思います。だからこそ仕事に「自分らしさ」が必要なのです。みなさんの「自分らしさ」とは何でしょうか。そしてこの結果をどのように受け止めますか。

皆さんの仕事を通しての相談に無料で応じます。連絡先は下記まで、直接申し込まれてもかまいません。

norix7364@wave.plala.or.jp（小文字）または 090-7426-3034 秋葉まで

16時～21時まで対面、Zoomどちらでも無料で相談に応じます。下記アドレスまで相談内容、相談日時（相談日は第2希望まで記入してください。）を連絡ください。相談を通して「自分のやりがい」「自分らしさ」を見つけるお手伝いをさせていただきます。今日から、もっと自分を大切に生きていきます。